



Title	林栄一教授 経歴・研究業績
Author(s)	
Citation	大阪外大英米研究. 1987, 15, p. 9-14
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/99097">https://hdl.handle.net/11094/99097</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 林 栄一 教授経歴

大正8(1919)・6・7	林 喜平治・スエの5男として大阪市此花区草開町45(当時)にて出生
昭和7(1932)・3・25	第一西野田尋常高等小学校卒業
昭和12(1937)・3・20	大阪市立市岡商業学校卒業
昭和12(1937)・4・1	大阪外国語学校英語部入学
昭和14(1939)・7・9	第6回日米学生会議に参加(会場:南加大学(ロスアンゼルス))
昭和15(1940)・3・11	大阪外国語学校英語部卒業
昭和17(1942)・9・20	九州帝国大学法文学部英文科(繰上)卒業
昭和17(1942)・9・30	海軍予備学生(兵科)として大竹海兵团より出発台湾東港海軍航空隊基地にて訓練
昭和18(1943)・8・31	海軍(予備)少尉・充員召集(鹿児島海軍航空隊)
昭和18(1943)・10・1	土浦海軍航空隊
昭和19(1944)・3・1	海軍兵学校(岩国分校)
昭和19(1944)・6・1	第一南遣艦隊司令部付(駐泰日本大使館付海軍武官府勤務)
昭和19(1944)・7・1	海軍中尉
昭和20(1945)・6・1	海軍大尉
昭和20(1945)・8・20	敗戦・以後在バンコク海軍司令部にて進駐英軍との連絡将校として在泰日本陸海軍将兵の日本還送業務に従事
昭和21(1946)・11・28	佐世保に帰還・充員召集解除
昭和22(1947)・2・1	NHK大阪中央放送局員(翻訳・通訳業務に従事)
昭和22(1947)・8・31	大阪外事専門学校講師・NHK嘱託

林 栄 一

昭和23(1948)・11・4	柴田隆造・ツネ長女タツ子と結婚
昭和24(1949)・6・30	大阪外国語大学英語学科助教授・NHK退職
昭和24(1949)・9・1	内国留学（京都大学文学部言語学科）
昭和25(1950)・3・31	
昭和25(1950)・9・1	外国留学（ミシガン大学大学院言語学科）
昭和26(1951)・6・30	
昭和37(1962)・8・1	大阪外国語大学学生課長に併任
昭和38(1963)・7・31	
昭和40(1965)・10・1	大阪外国語大学教授
昭和44(1969)・7・10	大学院論文指導教授
昭和44(1969)・4・1	学生委員会委員長として紛争処理に当たる
昭和45(1970)・3・31	
昭和46(1971)・7・1	大阪外国語大学付属図書館長に併任
昭和48(1973)・6・31	
昭和50(1975)・4・1	英語学科主任教授
昭和57(1982)・3・1	大阪外国語大学長
昭和59(1984)・8・—	文部省より中国訪問
昭和60(1985)・3・1	学長再任
昭和60(1985)・5・—	上海外国语学院訪問（招待）
昭和61(1986)・8・26-9・3	文部省より中国訪問
昭和62(1987)・2・28	学長任期満了により退職

# 林 栄一 教授研究業績

## I 著 書 (\*は共著, °は監修, 監訳)

英語構造の要点と教材 (昭和34 (1959) · 4 · 15—大修館)  
言語理論序説 (34 (1959) · 5 · 15—研究社)  
新英文法辞典\* (34 (1959) · 6 · 5 · 一三省堂)  
クエスチョン・ボックス\* (35 (1960) 8 ~ 37 (1962) · 8 一大修館)  
英語慣用法辞典\* (36 (1961) · 4 · 25—三省堂)  
英語語法辞典\* (41 (1966) · 2 · 1 一大修館)  
英文法 (42 (1967) · 1 · 25—大学社)  
ニューエイジ検定高校英語教科書\* (42 (1967) 5 · 30—研究社)  
基本高校英語 (43 (1968) · 3 · 1 一文研出版)  
英語表現辞典\* (44 (1969) · 6 · 15—研究社)  
現代英語学辞典\* (48 (1973) · 1 · 10—成美堂)  
改訂ニューエイジ\* (49 (1974) · 5 · 10—研究社)  
プロック日本語論考° (50 (1975) · 6 · 20—研究社)  
音韻論総覧° (53 (1978) · 9 · 10—大修館)  
国語学辞典\* (55 (1980) · 9 · 30—東京堂)  
フランス語音韻論° (56 (1981) · 8 · 25—研究社)  
三訂ニューエイジ\* (57 (1982) · 3 · 31—研究社)  
新英語学辞典\* (57 (1982) · 11 · 1—研究社)  
(言語学の潮流° (62 (1987) · 年末 (予定) 一勁草書房)

## II 論 文

傾斜の表現 (昭和24 (1949) · 7 · 5—神戸商大『白鳥』(I))  
米国中西部方言の音声構造について I, II, III (27 (1952) · 5 · 30, 28 (1953) · 7 · 20, 30 (1955) · 4 · 1—大阪外大『学報』 I, II, III)

米国英語における [æ] の音韻学的解釈 (31 (1956) · 5 · 15—『豊田博士古稀記念論文集』)

日英音節構造の比較 (33 (1958) · 4 · 1—大阪外大『学報』 IV)

語とは何か (34 (1959) · 10 · 25—大阪外大『英米研究』 I)

英語における音節の内的機序 (35 (1969) · 7 · 20—『アングリカ』 4 · 2)

イエスペルセンと構造言語学 (35 (1969) · 9 · 25—広島大『英語英文学研究』 7 · 1)

言語の内的機序 (36 (1961) · 2 · 20—『構造言語学』 III)

英語群子音の内的機序 I, II, III (36 (1961) · 1 · 25—『英語学』 I, 36 (1961) · 4 · 25—大阪外大『英米研究』 II, 37 (1962) · 7 · 30—大阪外大『英米研究』 III)

Post-Vocalic /r/ について (36 (1961) · 6 · 30—『中山教授還暦記念論文集』)

意味の形式 I, II (37 (1962) · 9 · 10—『英語学』 II, 39 (1964) · 8 · 25—『英語学』 III)

英米音の音素表記 (39 (1964) · 11 · 1) —『英語青年』 109 · 12)

L L による英語教育 (41 (1966) · 3 · 31—L L A 関西支部『研究集録』 I)

文型・文法の研究 1 ~ 6 (41 (1966) · 9 · 1 ~ 42 (1967) · 3 · 1—開隆堂『英語教育』 18 · 5 ~ 18 · 10)

Glossematics Once Again (42 (1967) · 9 · 15—『英語学』 IV)

成文構造文法の再吟味 (42 (1967) · 11 · 10—『英文学研究』 44 · 1)

シラビケーション (43 (1968) · 9 · 25—神戸商大『人文論叢』 4 · 1 · 2)

グロセマティクスの問題点 (44 (1969) · 8 · 10—『英語文学世界』 69 · 9)

言理学における『意図』 (45 (1970) · 8 · 1—『英語青年』 116 · 8)

イエルムスレウの人と業績 (45 (1970) · 10 · 1—『英語文学世界』 70 · 4)

日英対象文法論 (48 (1973) · 12 · 5—文化庁『日本語と日本語教育—文法篇』)

There-be 構文の本質 I (50 (1975) · 3 · 31—大阪外大『英米研究』 (X))

## 林 栄一 教授研究業績

日英両語表現の相違の奥にあるもの (50 (1975) · 8 · 1—大修館『英語教育』  
75 · 8)

ルイ・イェルムスレウ (50 (1975) · 12 · 1—『言語』75 · 12)

表現のエチュモン (51 (1976) · 5 · 20—『小松 光教授退官記念エッセイ集』)

言理学と生成文法 (51 (1976) · 7 · 1—『蛭沼教授還暦記念論文集』)

言語素論 (コペンハーゲン学派) (60 (1985) · 2 · 10 『ソシュール事典』)

### III 日本文学英訳

The Takase Boat (森 鳩外: 高瀬船) (昭和31 (1956) · 3 · 31—*The Reeds II*)

*The Dancing Girl of Izu* (川端康成: 伊豆の踊子) (32 (1957) · 3 · 31—*The Reeds III*)

The Wind Rises (堀 辰雄: 風立ちぬ) (33 (1958) · 3 · 31—*The Reeds IV*)

The Koya Priest I (泉 鏡花: 高野聖) (34 (1959) · 3 · 25—*The Reeds V*)

The Koya Priest II (泉 鏡花: 高野聖) (35 (1960) · 5 · 31—*The Reeds VI*)

The Narrow Road of Oku (松尾芭蕉: 奥の細道) (36 (1961) · 9 · 25—*The Reeds VII*)

A Traveler's Note in the Panier (松尾芭蕉: 箕の小文) (37 (1962) · 12 · 20—*The Reeds VIII*)

The Journal of a Weather-beaten Wayfarer (松尾芭蕉: 野晒紀行) (39 (1964) · 1 · 31—*The Reeds IX*)

A Travel to Kashima, A Travel to Sarashina (松尾芭蕉: 鹿島紀行, 更科紀行) (40 (1965) · 3 · 31—*The Reeds X*)

The Abode-of-Illusion Hermitage (松尾芭蕉: 幻住庵記) (42 (1967) · 3 · 31—*The Reeds XI*)

### IV 学会発表

傾斜格の機能について (昭和23 (1948) · 11 · 3—日本英文学会第1回九州支部大会)

Vox Americana (24 (1949) · 10 · 8—日本英文学会第2回九州支部大会)

## 林 栄 一

Etymon—A Study of 'From Within' (25 (1959) 6 · 17—第22回日本英文学会全国大会)

Phonemic Analysis of American English (26 (1951) · 10 · 27—日本英文学会第3回九州支部大会)

A Phonemic Study of the Syllabic Structure of American English (27 (1952) · 6 · 7—第24回日本英文学会全国大会)

The Tasesmes of American English (27 (1952) · 11 · 8—日本英文学会第4回九州支部大会)

The Four Dimensional Semiotic Schema in Glossematics (28 (1953) · 11 · 3—日本英文学会第5回九州支部大会)

A Tentative Phonemic Interpretation of American English [æ] (30 (1955) · 5 · 28—第27回日本英文学会全国大会)

構造言語学における形態分析—グロセマティクスの立場から (33 (1958) · 6 · 8—第30回日本英文学会全国大会)

機能的にみた英語の音節構造 (34 (1959) · 10 · 25—第41回日本言語学会)

複合語—形式的立場から (35 (1969) · 5 · 29—第32回日本英文学会全国大会)

英語意味論の特性—言理学的解明 (40 (1965) · 5 · 29—第37回日本英文学会全国大会)

### V その他

小論文・評論・書評・解説・隨筆・新聞雑誌寄稿・ラジオ, テレビ出演・講演等は列挙に堪えないので省略

### VI 学会活動

日本英文学会・日本言語学会・日本音声学会・LL学会・日本エドワード・サピア協会・関西言語学会等の評議員・理事, 会長等を歴任

### VII 社会活動

大阪府山片蟠桃賞審査委員

各種公共団体の役員

箕面中央ロータリークラブ会員